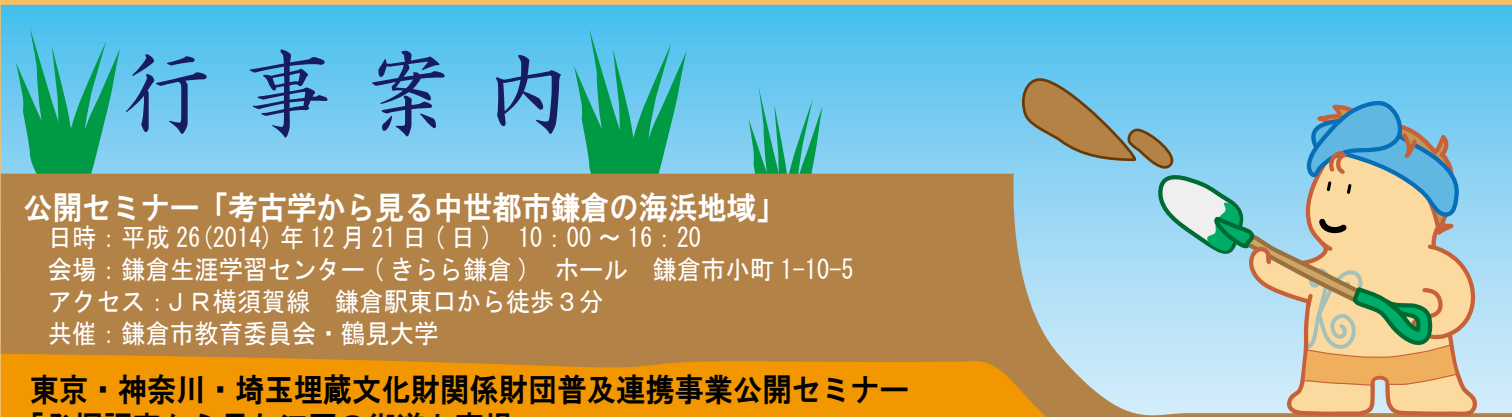




行事案内

公開セミナー「考古学から見る中世都市鎌倉の海浜地域」
日時：平成26(2014)年12月21日(日) 10:00～16:20
会場：鎌倉生涯学習センター(きらら鎌倉) ホール 鎌倉市小町1-10-5
アクセス：J R横須賀線 鎌倉駅東口から徒歩3分
共催：鎌倉市教育委員会・鶴見大学

東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業公開セミナー
「発掘調査から見た江戸の街道と宿場」
日時：平成27(2015)年1月11日(日) 10:00～16:10
会場：東京都庁都民ホール 新宿区西新宿2-8-1
アクセス：J R新宿駅西口から徒歩約10分
申し込み方法：往復はがきで申し込み
申し込み先：〒206-0033 東京都多摩市落合1-14-2
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団
東京都埋蔵文化財センター公開セミナー係宛
締切日：平成26年12月15日(月) 必着
但し応募者多数の場合は申し込み先着順で来場者を決定します。

遺跡見学会 伊勢原市「子易・中川原遺跡」
開催予定 平成26年12月～平成27年1月頃
本誌で紹介した「呪符木簡」もご覧いただけます。

当財団以外の行事
※行事に関するお問い合わせは、各主催者をお願いします。

第38回神奈川県遺跡調査研究発表会 (当財団後援)
内容：平成25年度の県内の埋蔵文化財発掘調査の成果
「宮山中里遺跡」井関文明「伊勢原市No.163遺跡」井辺一徳
「伊勢原市No.71遺跡」木村吉行 ほか
日時：平成26(2014)年10月26日(日) 10:00～16:30
会場：横浜市歴史博物館 横浜市都筑区中川中央1-18-1
アクセス：市営地下鉄センター北駅より徒歩5分
申込：不要 入場無料
主催：神奈川県考古学会 問合せ先:soumu@koukokanagawa.com
詳細はhttp://koukokanagawa.com/index.htmlを参照ください

大地に刻まれた藤沢の歴史Ⅳ～古墳時代～講演会
内容：講演会 藤沢の古墳時代
「(仮) 藤沢市内の横穴墓について」 柏木善治
日時：平成26(2014)年11月16日(日) 14:00～16:30
会場：藤沢市労働会館ホール 藤沢市本町1-12-17
アクセス：小田急線藤沢本町駅から徒歩10分
J R東海道線藤沢駅北口から 徒歩15分
申込：不要 入場無料
主催：藤沢市教育委員会 問合せ先:0466-25-1111

伊勢原市第28回考古資料展 (当財団共催)
内容：平成26年度に市内で発掘された土器や石器などの遺物を展示します。
日時：詳細未定 平成27年2月に開催予定

伊勢原の遺跡調査報告会 (当財団共催)
内容：平成26年度に市内で発掘調査された遺跡の調査成果について発表します。
日時：詳細未定 平成27年3月に開催予定
主催：伊勢原市教育委員会 問合せ先:0463-94-4711

お問い合わせ
お申し込み

(公財) かながわ考古学財団野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町1660
E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 FAX: 045-842-9904

発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。



伊勢原市北西部の子易地区に所在する子易・中川原遺跡は、標高116～127mを測る鈴川右岸の段丘面に立地する遺跡です。平成25年7月より1区北と呼称する約3,074㎡の調査区を対象に、中世面、及び近世面の調査を実施してまいりました。

子易・中川原遺跡1区北調査区内には、段切造成によって開削された4段の平坦面が存在していますが、そのうち、調査区東端部にあたる最下段の平坦面は、近世後半期に完全に埋没してしまった谷部に相当しています。この谷部で実施した中世面の調査において、表面に墨書文字が記された木札状の木製品が出土しました。

出土した木札状の木製品は、長さ14.9cm、幅3.4cm、厚さ3mm程の大きさのもので、呪いの文句を書いて呪術的な行為に用いた「呪符木簡」と考えられるものです。中世の木簡としては伊勢原市内で初めての出土事例であり、貴重な文字史料の発見となりました。

子易・中川原遺跡位置図 (1/50,000)

今回紹介する遺跡

子易・中川原遺跡
戸田小柳遺跡

次ページのコラムに続きます →

発掘調査中または出土品整理中の遺跡を紹介します。
今回は伊勢原市「子易・中川原遺跡」で発見された呪符木簡と、厚木市「戸田小柳遺跡」で発見された銅鏡という2つの貴重な遺物について、コラムで特集します。

発掘コラム 呪符木簡とは…？ ～伊勢原市 子易・中川原遺跡～

「呪符木簡」とは、信仰や呪術といった呪いのために使用され、災いや邪気を払うための呪文や符号を書いた木札のことを指しています。中世に帰属するものが多いと言われていますが、国内最古のものは7世紀代のものが確認されているようです。

「呪符木簡」には、「急々如律令」や「天罡」といった特徴的な呪句や、「符籙」あるいは「符淨」と呼ばれる、日・月・口・鬼・山・王などの文字をいくつも重ね合わせて記号のような表記を行っているものが多くみつかっており、道教や陰陽道などの影響が窺えます。

「急々如律令」とは中国漢代の行政文書に使用された文言で、元々は「律令に従い至急対処するように」というような定型文であったものが、道教あるいは陰陽道において「悪鬼よ早々に退散せよ」という意味の邪気払いの呪文として使用されるようになったといわれています。今回子易・中川原遺跡で見つかった木簡にも記されていました。

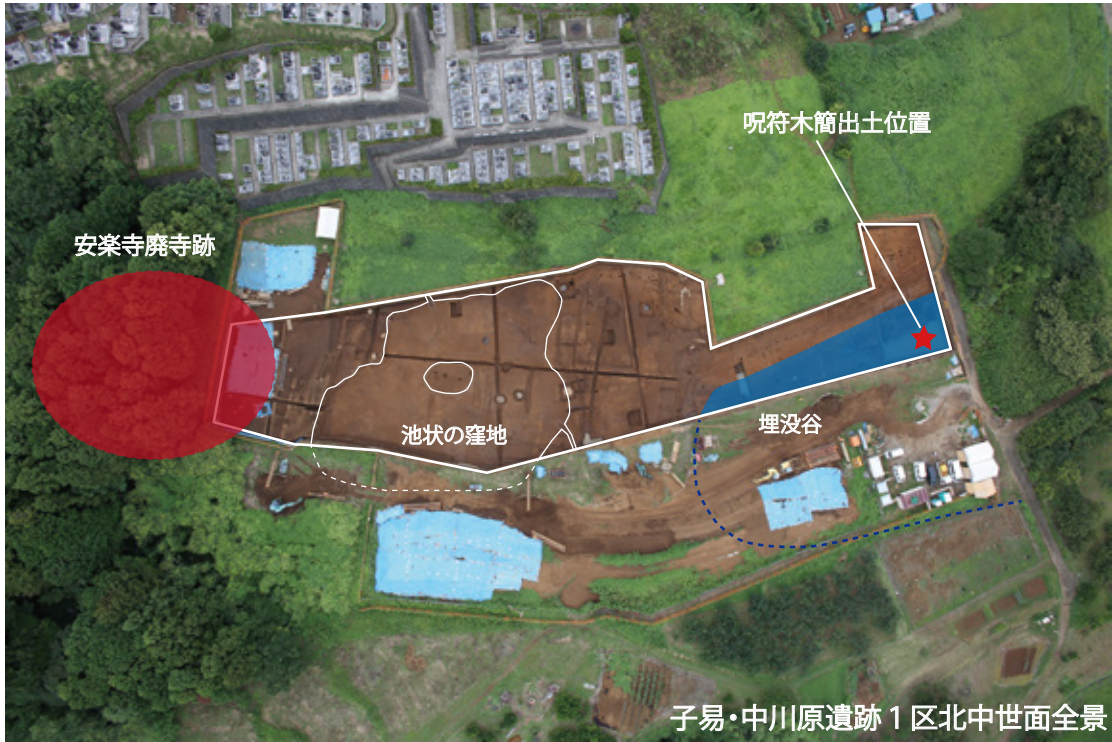
「天罡」とは道教の神であり、北斗星を指しています。天変地異や病を防ぎ、死者を救うとされる呪句で、幸福を祈る言葉とされています。今回発見された木簡では逆さまに表記されており、「罡」にあたる部分の文字が「𠂔」という文字で表記されていました。「天罡」の「罡」の文字は、しばしば「𠂔」や「𠂔」の文字で表記される場合があり、今回のものもこの「𠂔」の文字の異体字だと考えています。

「符籙」あるいは「符淨」と呼ばれる部分には、ある特定の文字や記号のようなものが重畳して表記されています。今回出土した木簡では、「月」、「日」、「口」が用いられていますが、判読が困難な部分の文字（釈文の赤字で示した部分）は、「山」のようにもみえます。

子易・中川原遺跡で出土した呪符木簡は、端部に折れたような破断面がみられないため、おそらくは完全なかたちで出土したものとされます。従って、地面に突き刺して用いたのではなく、軒先に立て掛けたり、掲げたり、あるいは水に流したりといった使い方をしたのではないのでしょうか。



天
月
月
日
山
口
口
口
天
急
々
如
律
令



発掘コラム 位至三公鏡 ～厚木市 戸田小柳遺跡～

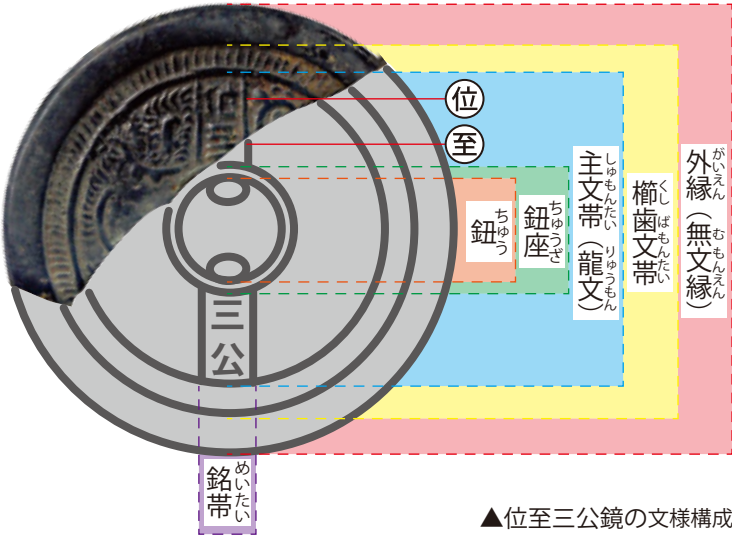


▲戸田小柳遺跡出土 位至三公鏡（ほぼ原寸）

本遺跡は、小田急線本厚木駅から約3.6 km南の厚木市酒井に所在し、相模川右岸の沖積微高地（標高約13～14m）に立地しています。平成24年12月から調査を開始し、平成26年5月から8月までP2東地区の調査を行いました。確認されている主な遺構は、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の溝状遺構です。弥生時代、古墳時代の溝状遺構は平面形、断面形から判断して自然流路と推定されます。古墳時代の溝状遺構はこの地区では5条見つかっており、その中の7号溝状遺構から位至三公鏡（または双頭龍文鏡）が出土しました。鏡は鏡面が上になった状態で出土しています。また、この溝状遺構からは多量の土器が出土しており、古墳時代後期のものが主体であることが分かっています。

鏡は全体の約3分の1が残存し、復元した直径は9.1cm、厚さは1～2mmです。文様構成を復元すると、中心に半球状のつまみがあり、その上に「位至」、下に「三公」という銘文が入り、両脇にS字状の胴体をもつ双頭の龍が点対称に配置され、外周を櫛歯文がめぐり、最外周に文様のない外縁がある、という配置になります。

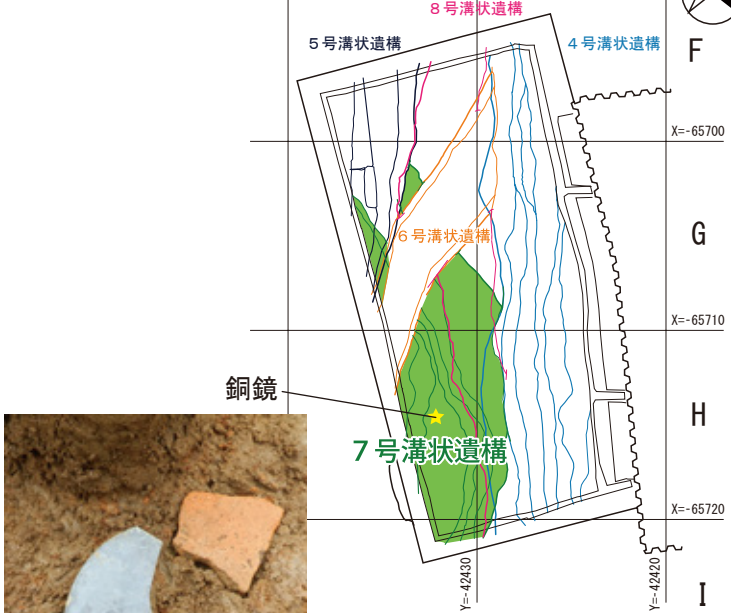
「位至三公（位、三公に至らん）」は、高い位に出世できますようにという中国古代の吉祥句です。双頭の龍を主文様とした位至三公鏡は、中国後漢時代の終わりから三国、西晋の時期（およそ2世紀後半から3世紀）にかけて製作され、河南省・陝西省・湖北省などで作られたと推測されています。



▲位至三公鏡の文様構成



▲7号溝状遺構
古墳時代後期の土器が多量に出土しました。



◀鏡の出土状況
鏡面を上にした状態で出土しました。

弥生・古墳時代には、大陸で作られた銅鏡が流入しました。当時の日本列島では鏡は貴重な品であり、権力者の権威を示すため、あるいは神に祈る際の依り代として大切に使われました。日本での位至三公鏡の出土例は30面以上ありますが、そのほとんどは西日本の墳丘墓や古墳からの出土であり、東日本では数例のみ、また今回のように墓以外から出土している例はわずかです。どのような経緯で、製作地から2,000km以上離れた厚木市のこの遺構に大事な鏡が置かれたのでしょうか。遺跡の立地を見てみると、遺跡は相模川の支流である玉川のすぐ西側に位置しています。もしかしたら、人びとが河川交通の安全を願って神様へささげる物として、この鏡が使用されたのかもしれませんが。今回見つかった鏡は小さな破片ですが、様々な想像をかきたててくれる、非常に興味深い資料だといえます。